

第59回日本学連総会【配布資料8】

2013.10.12

日本学連 2013 年度秋総会 議案資料
作成：山川克則（副会長・YMOE 社）

案件名：スプリントインカレ（実験大会）について

事業内容：（内容は後述するが）一言で言うと、今年の春インカレの例年モデル・開会式が開催される金曜日さらに1レースウィニング12分の決勝のみの一本勝負でスプリントインカレの実験大会を開催する是非について討議をお願いしたいということ

発端：

いうまでもないことだが、日本学生オリエンテーリング連盟というからには、オリエンテーリングの種目すべて取り扱う唯一の学生統括の全国団体ということになるが、その範疇は、主に foot オリエンテーリングのことを扱っている。（他に、スキーO、トレイルO、MTB-Oがあるがこれらのことは主としては学連では扱っていないし、扱いきれない、唯一現在あるのが“インカレ協賛大会”として、日本トレイルO協会が主導してインカレ前日に行っている程度で、つまりは日本全体の団体に学生含めて活動は任されているし、活動規模もそのレベルのものである。ちなみに、“今年のインカレ協賛トレイル”も昨年に続き春インカレの方での開催になる。）でもって日本学連が主に扱うオリエンテーリングは foot オリエンテーリングということになるが、この競技にも4種目（ロング、ミドル、スプリント、リレー）である。このうち、スプリントについて来年より世界のフォーマットが大きく変わる。このことについて、日本の競技統括団体として、何らかの対応を迫られるわけだが、これまでの学連として、その組織内の最高の競技パフォーマンス発揮の場としてインカレスプリントの扱いについての経緯もあるので、今までの取り組みを見直して、自分達にいったい何が今の環境下でできうるのか、それを根本から考え直してみることからもう一度始めなおしてみようということで、今回の実験大会を提案している。

尚、世界のオリエンテーリング種目のフォーマットの大きな変革はJOA（日本オリエンテーリング協会）の以下のwebページで解説されているので、総会から帰ったら一度ちゃんと読んでおいてもらいたい。

<http://www.orienteering.or.jp/NT/>

http://www.orienteering.or.jp/NT/news/2013/0902_post_27.php

http://www.orienteering.or.jp/archive/files/New_WOC_Format2.pdf

http://www.orienteering.or.jp/NT/news/2013/0909_2014.php

特にスプリントについては、以下のように公開での説明と発言の機会があります。

<http://onoehaniwa.co/Sprint-Forum.pdf>

要するに、選手選抜の形式が大きく変更され、まとまった人数（3名）が参加できる種目は日本のような競技環境の場合、スプリントとリレーしかなくなるということ。それに加えて、スプリントの対策がこれまでちゃんとできていたかという点、失格者が多発したり、基本的にその競技そのものの環境に対応できていなかったりと色々準備体制にまで反省のコメントが出てくるようになり、日本国の組織としても、新たな対応策がすぐに必要になってきているということ。（短すぎて全部を言っていないかもしれませんがそれはご容赦）

学連としての種目対応のこれまでの経緯をざっと（詳しくは、活動報告書に掲載されている）

第1回～第6回：クラシックレース一本、団体戦は各校3～5名のタイムの合算

第7回（1984年）～：日本学生オリエンテーリング連盟の正式発足と団体戦をリレーで日光で開催

なので、学連にとって“日光”は聖地といわれている。

1992年 インカレショート試行大会（馬籠）秋開催、予選・決勝方式

1993年 インカレショート開始（伊那）秋開催、予選・決勝方式 そのごしばらく定着

2004年 ショートをミドル改称、クラシックとロングと改称、ロングとミドルの開催記時期を秋開催と春開催で交換、この年から秋ロング（愛知のWOCテレビ）春ミドル（予選決勝公式、日光「不動の滝」の形式に。種目名称の変更は世界の流れに合わせた。

2009年 ミドルの予選決勝公式を決勝一本に、予選決勝方式の運営負担の大きさの問題の他に世界のミドルの基準に合わない短い時間の競技になっていたことを是正する意味もあった。

で、今回のフォーマットの改訂は、学連としてもスプリントの対応を今一度求められるものではないか、こうしてあげた変革と同レベルで扱わなければならない問題なのでないかということで議論を上げた。

学連としてのスプリントへの取組の経緯

（世界的には）オリエンテーリングの導入・基礎として、当初から公園や大学キャンパス内でのオリエンテーリングは（日本でも同様、大学クラブの創設時よりキャンパスマップはある）行われていたが、これも短

距離の一種目として扱うようになったのは2000年を過ぎたあたり、大縮尺の地図規定も制定され、世界レベルの競技としては「パークワールドツアー」として開始、日本にも来ている（立川の昭和記念公園）。その後パークOから、スプリントと種目名を変更し（同時にミドル種目も増えた）世界でも、同日開催の予選決勝方式は、スプリントで開催されている。

学連としては、行事が多くなりすぎず、そんな短い競技に全国から選手がちゃんと集まるのかなど多くの懸念が当初からあり、その頃創設された全日本スプリントに加わる（お願いして混ぜていただく）形式が取られた。これは第1回全日本スプリントの運営の中核に当時技術委員会でインカレスプリントの草案作りに加担した吉村年史氏（現北九州OLC、広島大OB）もいたことで、インカレ競技規則の書き換え作業を行っていた前技術委員長西脇氏とともに主導された。それは、全日本のE種とは別に学生の枠ルールを設定し、コースは同じ、全日本の決勝に漏れても、学生の決勝には残れる、逆の言い方をすれば学生の出場者には、全日本のE種をもち、全日本と学生両方に出るものと、学生のみカテゴリで出場するものが混ざるというものであった。第1回は、全日本は正式な全日本スプリント、学生はインカレスプリント試行大会、それでショートが辿った軌跡と同様第2回全日本スプリントでインカレスプリントも正式発足ということで、規約準備なども進められていた。しかしながら、当初からあった懸念材料は何ひとつ解消されたわけではなく、第2回前の学連内議論で、スプリントは正式にインカレとするには、早計であるという結論になった。（ちなみに、これは総会で扱う前に幹事会議論で決しました。）しかしながら、今までの流れを止めてしまうのもそれは無い、ということで「学生の部」として続けることにした。

つまり、学連はこの時点で一度「インカレスプリント」開催を正式に「否決」したことになる。そのとき出た意見の懸念材料は、今と同様、

- ・ スプリントだけで遠征はできない
- ・ そもそも大会多すぎ
- ・ 手軽に行える種目ではあるが、これを真剣に一正式種目として真剣に取り組むどうかはまだ怪しい
- ・ なので、インカレ設計の基本としてある参加費収入で大会の経営が成り立つかどうかとも怪しい

などでありました。

第2回は、この原稿を書いている山川が運営を引き受けていたので、お願いされるまでもなく、第1回で西脇・吉村が主導したフォーマットを引き継ぎ開催した。第3回以降は、このフォーマット（「学生の部」として別枠募集、二重登録での開催）のお願いを続けていくこととし、第3回で茨城では、幸いにして受け入れていただいた。これにはそもそも第1回全日本からの主催者の発想として、スプリント大会を引き受けるにあたって参加員・大会の採算性からいって、学生の参加がなければそもそも日本全体でもスプリントの大規模大会の開催は厳しいという同様の懸念があって、合体すればお互いの目算が合うのではないかと、という面もあったのであるが、立場上は学連がお願いする立場、それにルールが二重で複雑なため、色々な問題も抱えていた。（高度な運営が必要／一般決勝に落ちて学生決勝に残れるとか、一般決勝に出た学生と学生決勝のみだったものを混ぜて、学生表彰を行うのだが、合体集計をミスったとか。）で、第3回（茨城）では、まだ学生の参加もある程度はあったが、大会主催者の経費はほぼ手弁当だったし（交通費も満足に出ない）、第4回（群馬）では学連からのお願いも通じなかった。第5回（三重）では、また学生の参加を期待して協議に入ったが、スプリントの単独開催では他の行事も続いていたこともあり、学生の参加は無残なもので、女子に関しては学生表彰を行うのもおこがまれる程の参加規模であり、学連としては大会主管者に大きく迷惑をかけてしまう結果となった（三重県協会からはべ切を延長してまでも名大や京大に依頼があったのを覚えている方もまだ昨年したことなのであるでいう）。で、今年の第6回（滋賀）ですが、自分もコラボ大会として翌日大会を主導する立場も兼ねているので、学連としての例のお願いを試みたのですが、同時に今までの問題点なども説明をしたわけですが、複雑な二重ルールをこなせるほどの運営体制ではなく、普通にワンフレームで予選・決勝を行うということになりました。意識ある大学生や中高生（今までその表彰もあったのでそのつもりでいた選手もいるだろうと・・・）に対するケアという点で自分は食い下がり、ワンフレームの枠内で決勝にでた大学生・中高生は特別表彰する（スポンサーはYMOE社になる。まあ2万円程度の出費）ということで体制を収束しました。（滋賀のwebではまもなく要項が修正されます。）

第1回 2008 千葉 インカレは試行大会

第2回 2009 新潟(ジェネシス) インカレは否決、「学生の部」として全日本に混ざる
改定インカレ規則に盛り込まれていたスプリントに関する文言はすべて削除して成立

第3回 2010 茨城 学生の部継続 学生表彰もまずは成立した

第4回 2011 (開催は2012年3月) 群馬 学生の部無し

第5回 2012 三重 学生の部復活 (要項草案に学生選手権とかかれていたので、文言の修正をお願いした。しかし学生の参加規模は惨憺たるもので、結果としてはかなり迷惑をかけてしまった)

第6回 2013 滋賀 学生の部は無いが、通常の決勝フレームの中で、学生生徒の特別表彰

なので、曲がりなりにもインカレ代替であった「学生の部」という扱いでもなくなり、スプリントのイン

カレ（と呼ぶべき大会）は一旦消滅することになった。

（全日本のE権を取得しているもののみが出場できる大会なので、学連のフレームとは別枠の大会であるということ

尚、今後この学連としての「お願い」を、全日本スプリント主管者に対して続けていくかという問題だが、あとで展開するモチベーションという観点からも、三重から滋賀へのこの流れで一旦霧散させるのが適当だと思う。

あと三重でも、この二重ルールによる問題？も発生しています。東大の三谷君が予選で落ち、学生決勝にはギリギリ残ったが、決勝で快走、全体でも3位に入る成績だったが、全体3位の表彰はなく、学生1位の表彰のみとなった。

モチベーションが問題

で、話が今年の議論になります。世界のこの流れ（世界に複数の選手を送り込める種目が、日本のような実情の国では、実質スプリントとリレーしかなくなったということ）に対応していくために、日本を代表する組織としてどう取り組んでいくべきかという議論です。先日の幹事会で少し突っ込んで議論しましたが、根本の議論としてモチベーションのないところに将来はない、ということが挙げられました。なので、全日本スプリントの主催者に対して、「学生の部」の設置のお願いをしていくという行為も、三重での実績の通りモチベーションを保ち得る方法ではなかったということで、このお願い行為を滋賀とのやりとりをきっかけに、今後はないことにしましょう。それに替わるモチベーションを保ちうる方法があるのならそれを模索しよう、ということで議論を進めていこう、ということになりました。

スプリントに対する日本選手の対応力の問題（ルール遵守の問題）

2-3年前のWOC（世界選手権）のスプリントで日本選手の失格が相次ぎ、その準備ができていたかということまで、反省点があとから挙がりました。日本での今までの開催実例をみても、失格行為に対する選手の心の準備という点では、結果としてちゃんとした準備・心積もりができていないということになります。事前に説明をうけて頭の中でわかっていても、スプリントという高速でのレースの中で、反則行為を厳しく律しながらレースをするというのは余程の集中力を要することのようです。日本国内のレースでも、いくら注意しても実際のレースになると反則行為は多発しています。人を立てても青黄テープをかけても制御しきれないものでないということのようです。

スプリントはショーアップスポーツ、パークOはみんなのスポーツ、似ていて非なるものでは？

ルールを厳格に守らせるのなら、非常に高度で特別な集中力を要する種目である以上、監視をつけて今以上に厳しい環境下で競技を行うしか方法はないのかもしれない。選手には相当の精神的バイアスをかけることになる。そうすると、みんなのスポーツということ相容れなくなる。運営資源の問題もある。ということは、ショーアップスポーツである以上、参加費収入に頼る運営形態は実情に合っていないということになる。きちんとした訴求をして、スポンサーとか競技力向上のための補助金を使うとかそういう発想になる。

スプリントインカレ実験大会の概要

- ・ 決定自体は、幹事会決済枠の中で決定できる（地図作成：20万円、運営（プロ委託有志協力）20万円）で実行の決済は幹事会裁量で決済可能、そして幹事会では決済するという方向で現在すすめている。
- ・ 例年ミドル&リレーの開会式とモデルを行う金曜日に1時間ちょっと特別に時間をとって12分のレースを行う。参加費は無料（幹事会決済可能予算で実験イベントは実行可能）。
- ・ ウィニングは12分、男子40名女子20名程度を自己推薦で選出（実績記入）、人数で切るのではなく、運営可能な一定数の枠内で運営者が選出。
- ・ ミドルの前日ということで、調整に影響があると考えられる選手の出場までは強要しないし、回りから非難もされないという前提で進めたい。あくまでも、日本の将来を考えた上での実験イベント
- ・ その時だけの設定ルールというのもあり、予めそれは観客には公開される。またそこで観戦することによって、監視の環境ができる。

要するに論点は、みんなの代表、みんなが競技の詳細まで詳しく見ている・見られているという極度の緊張を強い中で、いかに高速でのナビゲーション（そのナビは比較的簡単で、見るにも値するもの）のパフォーマンスを発揮できるか、それを実験しようとしている。したがって、その実験イベントの間は、毎年行っている金曜の行事を削って行うことになる。（具体的には、モデルの営業時間が例年より短くなり、シード選手紹介の練習とかに去年ほどの時間は割けないが、それでも実験イベントをやるかという問題になる。

考え方としては、過去の否決の歴史を引きずっている。否決した責任というを感じている。

そして、今年世界のフォーマットが変わり、さらなるスプリントへの対応が求められている。

否決するにも、また何も扱わないで不作為でいるのにも責任が生じるという認識が今の世界の中での日本の位置づけであると思う。なので、このままJOAのやることだけにのっかかるのか、学連としてインカレスプリントとしてできることがあるのか、あるいはどういう形なら開催可能なのかそれを確かめる実験であると言える。

で、今年の提案に戻ると、確かに今の枠組みの中でこのような実験大会を行うのも大変である。運営はインカレ実行委員会とは別途行うということでも、インカレのプログラムの流れというのがあるから、かなりの無理が伴う、それを押してでも開催する意義というのを学生に直接確認して欲しいという意見であった。つまり真剣にこの実験に向き合わなければ、ミドル&リレーの前日ではあるけれども、インカレの運営時間を削ってそういうイベントを行うだけの意味はないのではないか、協力もしづらいというスタンスであった。なので総会で扱ってもらっている。

どのようにやっていけばモチベーションを持ちうるのか、そのような実験をしたい、なのでまだまだ色々な意見を吸収して行っていけたらいいと思う。

スプリント競技の認識から一度リセットしてちゃんと学ぼう

地図の表現でプロは協力

競技形式は、実際にその姿を見てみた方々に依頼して、これが本当のスプリントだということを、一旦提示するような競技会にしたい。また、色々な人の意見を受け入れながら採用できるアイデアはさらに組み入れていきたい。

スプリント特有の変則的、あるいは厳格なルール遵守に関しては、観客を活用して、観客には予めネタばらししておき、その上で観戦してもらうということを考えている。変則的な物体については、その時臨時に作成されるものも含む。

ショーアップも現状のマンパワーでできる限りのことをしたい。（プロ活用）ちょうど1時間のTVのスポーツ中継をライブで見ているような感覚のイベントをやってみて、その舞台に上がる選手のモチベーションというところから議論したい。

最後に

ことスプリントに関しては、日本協会も今までの経緯・反省から今後新たな取り組みを開始すると聞いている。日本の環境の場合、スプリントに適した環境で競技可能な場所となると、まず大学キャンパスということになるという見解もある。学連の取り組みとも連携した関係というのが、今後も大きく議論の俎上に上がってくるだろう。否決の責任、不作為の責任ということも考えて、まずはこの実験イベントに取り組んでみてはと思うし、何もやらない段階で、モチベーションが無いから、低いからということで、結論を出してしまうことの後世へ責任ということまで考えを及ぼせていって欲し1-2いと希望する。

2013年度 春インカレについてのご報告

2013年度の春インカレについて、下記2点ご報告致します。

【1】選手権リレーのコース距離について

今年度のインカレリレーでは、選手権クラスのコース距離を

男子：1-3走等距離

女子：2走のみ短距離

としてコース設定を行います（2012年度春インカレと同様の方式）。

●理由

選手権リレーの2走を短距離とする方式は2009年度の春インカレより採用されていますが、

- ・2走独自の区間は全パターンで同一のレックとする必要があり（インカレ実施規則第14条8項）、コースプランに制約を受ける
- ・2走に実力が3番目の選手を持ってくるケースが大半を占め、戦略の幅が狭くなる
- ・地図のパターン数が増え、運営負荷が高まる

などのデメリットがあります。このため原則としては3走とも等距離とし、リレーとしての競技性を確保したいと考えています。

しかし女子の選手権リレーについては、選手を3人揃えることが難しいチームが多く、3走とも等距離とすると、

- ・競技時間オーバーによる完走率の低下を招く
 - ・選手権リレー出場への心理的ハードルが高くなり、出場校の減少につながる
- といった問題があり、ひいてはインカレリレーの盛り上がりを損なう恐れがあります。

以上の理由から男子は3走とも等距離とし、女子については引き続き2走を短距離とすることが望ましいと判断しました。

【2】リレーの地図置き場について

2012年度のインカレリレーでは、会場付近に地図置き場を設置することが困難であったため、一般併設クラスの地図については封筒に入れた状態で事前配布としました。

今年度は地図置き場を設置するスペースを確保できる見通しであるため、例年通り全クラスにおいて（2走以降の走者に）地図置き場で地図を配布します。

◎添付資料

- (1)「2012春インカレについて」（平成24年度第二回幹事会 提出資料）
- (2)「平成24年度第二回幹事会議事録より抜粋」

以上

第59回日本学連総会【配布資料10】

日本学生オリエンテーリング選手権ミドル・ディスタンス競技

関東地区代表選手選考会に伴う推薦立候補に係る規約

第一条 目的

この基準は日本学生オリエンテーリング選手権ミドルディスタンス競技大会（旧インカレショート、以下インカレミドル）関東地区代表選手選考会（以下ミドルセレ）で、インカレミドルでの選手権クラス出場権を得ることが出来なかった関東学連加盟員各位の救済措置としての推薦立候補について、その詳細を定めたものである。

第二条 推薦通過の対象

推薦通過の趣旨目的は、次年度インカレミドルの A エリートにおける学連枠を確保することが見込まれる関東学連加盟員に、B エリート出場の機会を確保すること、及び、インカレミドル A エリートにおいて卓越した成績を収めることが見込まれる関東学連加盟員が、やむを得ない事由によってセレクションを通過出来なかった場合に、A エリートへの出場の可能性を残すことである。ゆえに、A・B 双方の選手権クラスへの推薦枠を以下に用意し、併願は妨げない。

第三条 推薦立候補について

- 推薦立候補者は、セレクションの直後に周知される立候補書類に必要事項を記入し、指定された期限内に、指定提出先に提出しなければならない。
- 推薦立候補の受け付けは、セレクションの日から5日以内の、**関東学連幹事長**が定める日時とする。
- 関東学連幹事長**は、立候補書類を受理したらただちに、各連盟員を通して関東学連加盟員各位に対して、当該立候補書類を周知しなければならない。

第四条 推薦通過者の枠数について

- 推薦通過者数は、【日本学生オリエンテーリング選手権ミドル・ディスタンス競技・競技者数及びその配分に関する規則】の3条・4条によって当学連に与えられた地区学連枠の人数の、1/10とする。小数点以下は切り捨てとする。
- 当学連に与えられた地区学連枠の人数が10名に満たない場合は、一律に推薦枠を1つ用意する。

第五条 推薦立候補への判断の形態

- 推薦通過の可否は、**日本学連技術委員会（以下、技術委員会）の判断**による。**これは**、第三条に定める立候補書類の周知後、相当期間後に開催されることが望ましい。
- 推薦立候補者は、有効投票のうち過半数を獲得すれば、通過が認められる。
- 削除**

4 削除

5 削除

6 投票の結果、賛否同数だった場合は、「」がこれを判断する。

7 推薦立候補への判断の結果、第三条に定める推薦枠を満たさなかった場合、若しくは立候補者が推薦枠に満たなかった場合、セレクションで選考されなかった者のうち、順位順に繰り上がるものとする。

第六条 削除

第七条 通過の可否の判断基準について

- 推薦立候補者、および**技術委員会**は、以下第八条・第九条に定める判断基準に則って、推薦立候補および投票行動を行うものとする。
- 判断基準は、推薦立候補者がセレクションに欠席した理由(以下、「未出走の理由」)、セレクションに出走したが不通過だった理由(同「不通過の理由」)、そして推薦立候補者のオリエンテーリングの競技的実績の3点について、それぞれ定める。

3 削除

第八条 A エリート通過基準

1 A エリートへの推薦立候補者は、同条3項に定める判断基準と同条4項に定める判断基準の双方を満たすことが、強く望まれる。

2 A エリートへの推薦立候補者が基準を満たす場合に反対票を投じるには、正当な理由を付さねばならない。ここで「正当な理由」とは、社会一般的に見て著しく公平を害さない程度であれば足りるとする。ただし、基準を満たさない立候補者に賛成票を投じることは妨げない。

3 未出走の理由および不通過の理由の基準

- 未出走の理由を以下に定める。以下のいずれかを満たすと、基準を満たすと認定する。但し、いずれの場合もそれを証明する書類等が必要である。
 - 文科省指定の出席停止の疾患にかかった場合。**
 - セレクション当日に事故にあった場合。**
 - 3親等内における冠婚葬祭のように社会的にセレクションより重要と思われる行事があった場合。**
- 不通過の理由を以下に定める。以下のいずれかを満たすと、基準を満たすと認定する。
 - レース中に負傷者を発見して、その救助に当たり、**救護所等に付き添った場合。**
 - レース中に本人の過失なく、地元の方とのトラブルになった場合。
- 以上に準じる相当な理由があれば、立候補者は自薦理由として立候補書類に記載して良い。ただし、その場合はあくまで自薦理由の一つとし、基準を満たしたとは認定しない。

4 オリエンテーリングの競技的実績に関する基準

- 前年度インカレミドル A エリートに出走し、当時1～3年生の中で上位10名に入り、且つ同年度インカレロング選手権クラスに出走し、10位以内に入る者。
- 男女ともに、①の基準に服する。
- 以上に準じ得る相当の実績があれば、推薦立候補者は、自薦理由に追加して良い。ただし、その場合はあくまで自薦理由の一つとし、基準を満たしたとは認定しない。

第九条 B エリート通過基準

1 B エリートへの推薦立候補者は、同条2項に定める判断基準と同条3項に定める判断基準の双方を満たすことが望まれる。

2 削除

3 オリエンテーリングの競技的実績に関する基準

① 男子

- ・前年度インカレミドル A エリート出場。
- ・前年度インカレミドル B エリートで当時1～3年生の中で上位15位以内。
- ・同年度インカレロング選手権50位以内または L クラス各3位以内。

② 女子

- ・前年度インカレミドル A エリート出場。
- ・前年度インカレミドル B エリートで当時1～3年生の中で上位10位以内。
- ・同年度インカレロング選手権20位以内または L クラス3位以内。

③ 男女ともに、以上の3つの内、一つでも満たせば基準を満たしたと認定する。

④ 以上に準じる相当な理由があれば、自薦理由に加えることは妨げない。

第十条 修正

この規約の修正には、関東学連加盟校の過半数の賛成を必要とする。

平成22年 2月16日制定

平成24年12月 1日改正

日本学生オリエンテーリング選手権ミドル・ディスタンス競技

関東地区代表選手選考会に伴う推薦立候補に係る規約

第一条 目的

この基準は日本学生オリエンテーリング選手権ミドルディスタンス競技大会（旧インカレショート、以下インカレミドル）関東地区代表選手選考会（以下ミドルセレ）で、インカレミドルでの選手権クラス出場権を得ることが出来なかった関東学連加盟員各位の救済措置としての推薦立候補について、その詳細を定めたものである。

第二条 推薦通過の対象

推薦通過の趣旨目的は、次年度インカレミドルの A エリートにおける学連枠を確保することが見込まれる関東学連加盟員に、B エリート出場の機会を確保すること、及び、インカレミドル A エリートにおいて卓越した成績を収めることが見込まれる関東学連加盟員が、やむを得ない事由によってセレクションを通過出来なかった場合に、A エリートへの出場の可能性を残すことである。ゆえに、A・B 双方の選手権クラスへの推薦枠を以下に用意し、併願は妨げない。

第三条 推薦立候補について

- 1 推薦立候補者は、セレクションの直後に周知される立候補書類に必要事項を記入し、指定された期限内に、指定提出先に提出しなければならない。
- 2 推薦立候補の受け付けは、セレクションの日から5日以内の、幹事会が定める日時とする。
- 3 幹事会は、立候補書類を受理したただちに、各連盟員を通して関東学連加盟員各位に対して、当該立候補書類を周知しなければならない。

第四条 推薦通過者の枠数について

- 1 推薦通過者数は、【日本学生オリエンテーリング選手権ミドル・ディスタンス競技・競技者数及びその配分に関する規則】の3条・4条によって当学連に与えられた地区学連枠の人数の、1/10とする。小数点以下は切り捨てとする。
- 2 当学連に与えられた地区学連枠の人数が10名に満たない場合は、一律に推薦枠を1つ用意する。

第五条 推薦立候補への判断の形態

- 1 推薦通過の可否は、関東学連総会の議決による。この総会は、第三条に定める立候補書類の周知後、相当期間後に開催されることが望ましい。
- 2 推薦立候補者は、有効投票のうち過半数を獲得すれば、通過が認められる。
- 3 男子の推薦立候補者の通過の可否を決める投票権は、男子の所属する加盟大学の連盟員のみが有するとする。同様に、女子の推薦立候補者の通過の可否を決める投票権は、女子

の所属する加盟大学の連盟員のみが有するとする。

4 推薦立候補者は、その通過の可否を決める関東学連総会に出席し、自身の通過の妥当性を有権大学の連盟員に訴えることができる。関東学連総会を開催する幹事会は、立候補者の請求があれば、連盟員に対する事情説明のための時間を設けなければならない。

5 第四条に定められた枠数を超過して通過者を認めることはできない。当該枠数を超過して推薦通過が認められる者が生じた場合は、改めてどの推薦立候補者が通過にふさわしいかの決選投票を行うものとする。

6 投票の結果、賛否同数だった場合は、関東学連幹事長がこれを判断する。

7 推薦立候補への関東学連総会の判断の結果、第三条に定める推薦枠を満たさなかった場合、若しくは立候補者が推薦枠に満たなかった場合、セレクションで選考されなかった者のうち、順位順に繰り上がるものとする。

第六条 委任状による投票

推薦立候補者の通過の可否を決める総会に出席できない加盟校連盟員は、第五条3項に定める基準を満たす限り、理由を添えれば、委任状による意思表示を可能とする。ただし、委任状に添えられた理由が、第五条4項に定める、総会当日の推薦立候補者による答弁によって覆された場合は、その委任状による意思表示は無効票として扱う。

第七条 通過の可否の判断基準について

- 1 推薦立候補者および各有権大学は、以下第八条・第九条に定める判断基準に則って、推薦立候補および投票行動を行うものとする。
- 2 判断基準は、推薦立候補者がセレクションに欠席した理由(以下、「未出走の理由」)、セレクションに出走したが不通過だった理由(同「不通過の理由」)、そして推薦立候補者のオリエンテーリングの競技的実績の3点について、それぞれ定める。
- 3 以下、特別に定めるところがなければ、有権大学が判断基準を満たす推薦立候補者に反対票を投じることも、判断基準を満たさない推薦立候補者に賛成票を投じることも妨げない。

第八条 A エリート通過基準

- 1 A エリートへの推薦立候補者は、同条3項に定める判断基準と同条4項に定める判断基準の双方を満たすことが、強く望まれる。
 - 2 A エリートへの推薦立候補者が基準を満たす場合には、有権大学が反対票を投じるには、正当な理由を付さねばならない。ここで「正当な理由」とは、社会一般的に見て著しく公平を害さない程度であれば足りるとする。ただし、基準を満たさない立候補者に賛成票を投じることは妨げない。
 - 3 未出走の理由および不通過の理由の基準
- ① 未出走の理由を以下に定める。以下のいずれかを満たすと、基準を満たすと認定する。
- ・天災等やむをえない事情により、セレクション会場に辿りつけなかった場合。
 - ・卒業のために出席が必須の試験または発表が、セレクションの日に重なった場合。
 - ・年に1、2回しかない国家試験を受験する場合。
 - ・セレ前に不慮の事故に遭遇し、セレ当日に出走できる身体的状態にない場合。

- ・葬儀等、社会的にセレクションより優先すべき事柄が重なった場合。
- ② 不通過の理由を以下に定める。以下のいずれかを満たすと、基準を満たすと認定する。
 - ・レース中に負傷者を発見して、その救助に当たった場合。
 - ・レース中に本人の過失なく、地元の方とのトラブルになった場合。
 - ・レース中に崖崩れなど、本人の過失なく負傷した場合。
- ③ 以上に準じる相当な理由があれば、立候補者は自薦理由として立候補書類に記載して良い。ただし、その場合はあくまで自薦理由の一つとし、基準を満たしたとは認定しない。

4 オリエンテーリングの競技的実績に関する基準

- ① 前年度インカレミドル A エリートに出走し、当時1～3年生の中で上位10名に入り、且つ同年度インカレロング選手権クラスに出走し、10位以内に入る者。
- ② 男女ともに、①の基準に服する。
- ③ 以上に準じ得る相当の実績があれば、推薦立候補者は、自薦理由に追加して良い。ただし、その場合はあくまで自薦理由の一つとし、基準を満たしたとは認定しない。

第九条 B エリートの不通過基準

1 B エリートへの推薦立候補者は、同条2項に定める判断基準と同条3項に定める判断基準の双方を満たすことが望まれる。

2 未出走の理由および不通過の理由の基準

- ① 未出走の理由については、第八条3項①と同様とする。
- ② 不通過の理由については、第八条3項②に加えて、以下の場合を基準として認定する。
 - ・レース中に自身が不注意で負傷した場合。
 - ・インフルエンザ等感染力が通常の風邪よりも強い病気により、体調不良のまま出走した場合。
 - ・その他やむをえない理由による、身体的心理的不調があった場合。
- ③ 以上に準じる相当な理由があれば、自薦理由に加えることは妨げない。

3 オリエンテーリングの競技的実績に関する基準

- ① 男子
 - ・前年度インカレミドル A エリート出場。
 - ・前年度インカレミドル B エリートで当時1～3年生の中で上位15位以内。
 - ・同年度インカレロング選手権50位以内または L クラス各3位以内。
- ② 女子
 - ・前年度インカレミドル A エリート出場。
 - ・前年度インカレミドル B エリートで当時1～3年生の中で上位10位以内。
 - ・同年度インカレロング選手権20位以内または L クラス3位以内。
- ③ 男女ともに、以上の3つの内、一つでも満たせば基準を満たしたと認定する。
- ④ 以上に準じる相当な理由があれば、自薦理由に加えることは妨げない。

第十条 修正

この規約の修正には、関東学連加盟校の過半数の賛成を必要とする。

平成22年 2月16日制定

平成24年12月 1日改正